



動画で見る摂食嚥下障害

昭和大学歯学部
スペシャルニーズ口腔医学講座
口腔リハビリテーション医学部門
原田 由香

どうやって食べますか？



おいそうだな
何から食べようかな

お箸を使おうかな

噛んで食べよう
もぐもぐ

ごっくん

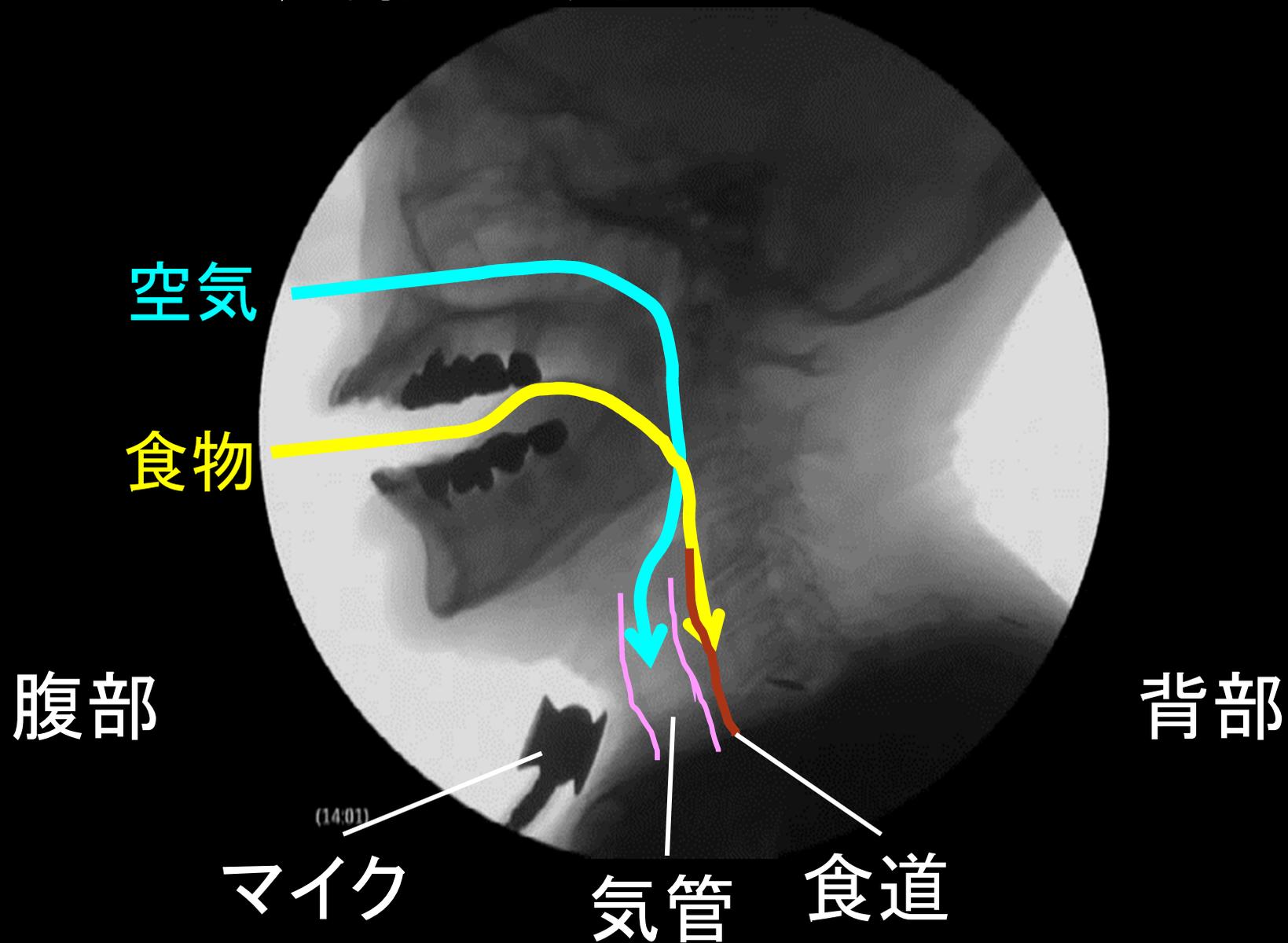
摂食嚥下とは？

摂食嚥下とは、食物を**認知**し、口に運び口腔・咽頭・食道を経て**胃に送り込む**までの全過程の機能をいう。

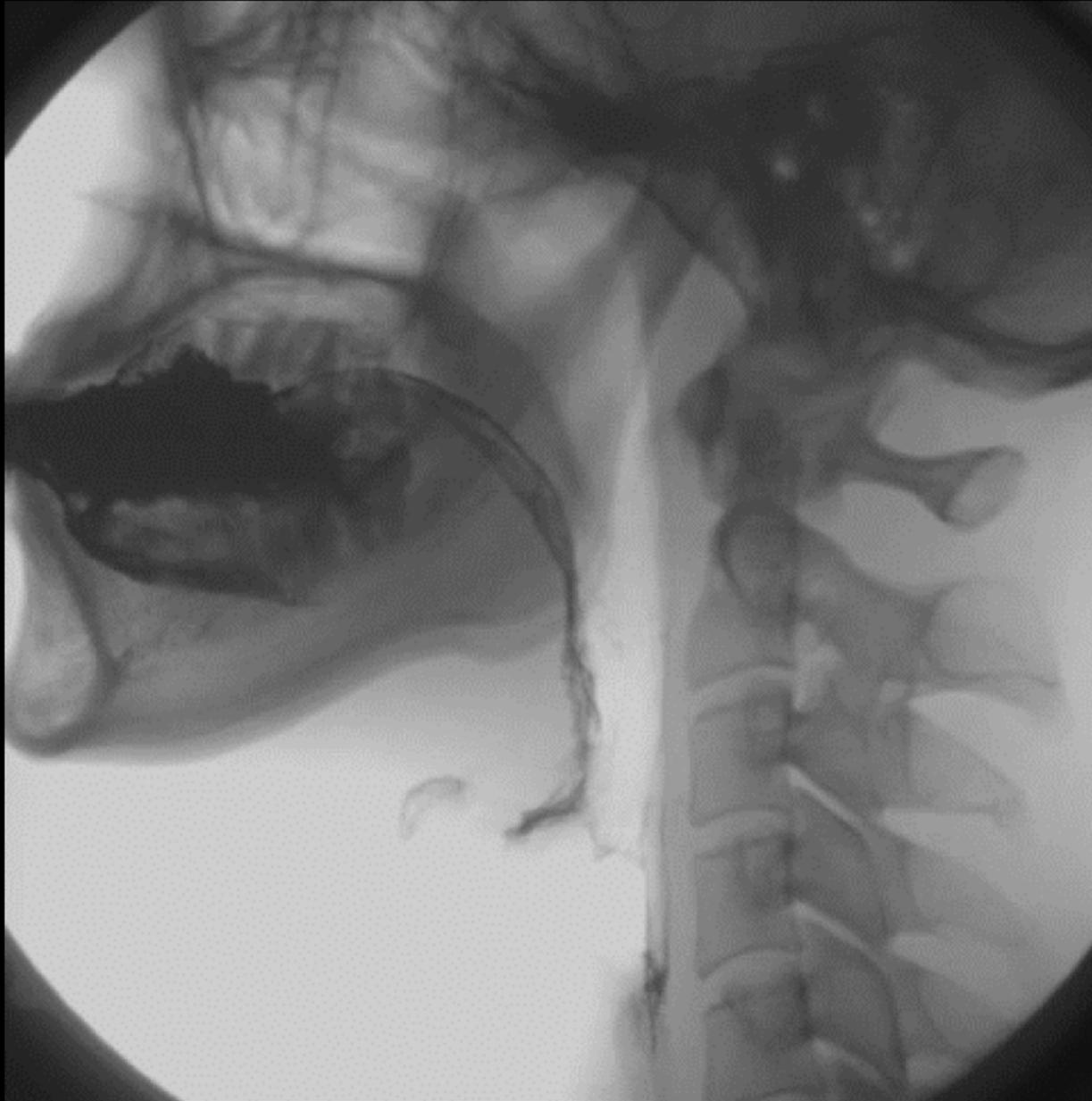
摂食嚥下障害とは、この過程のどこかに障害がみられる場合をいう。



空気と食物の流れ



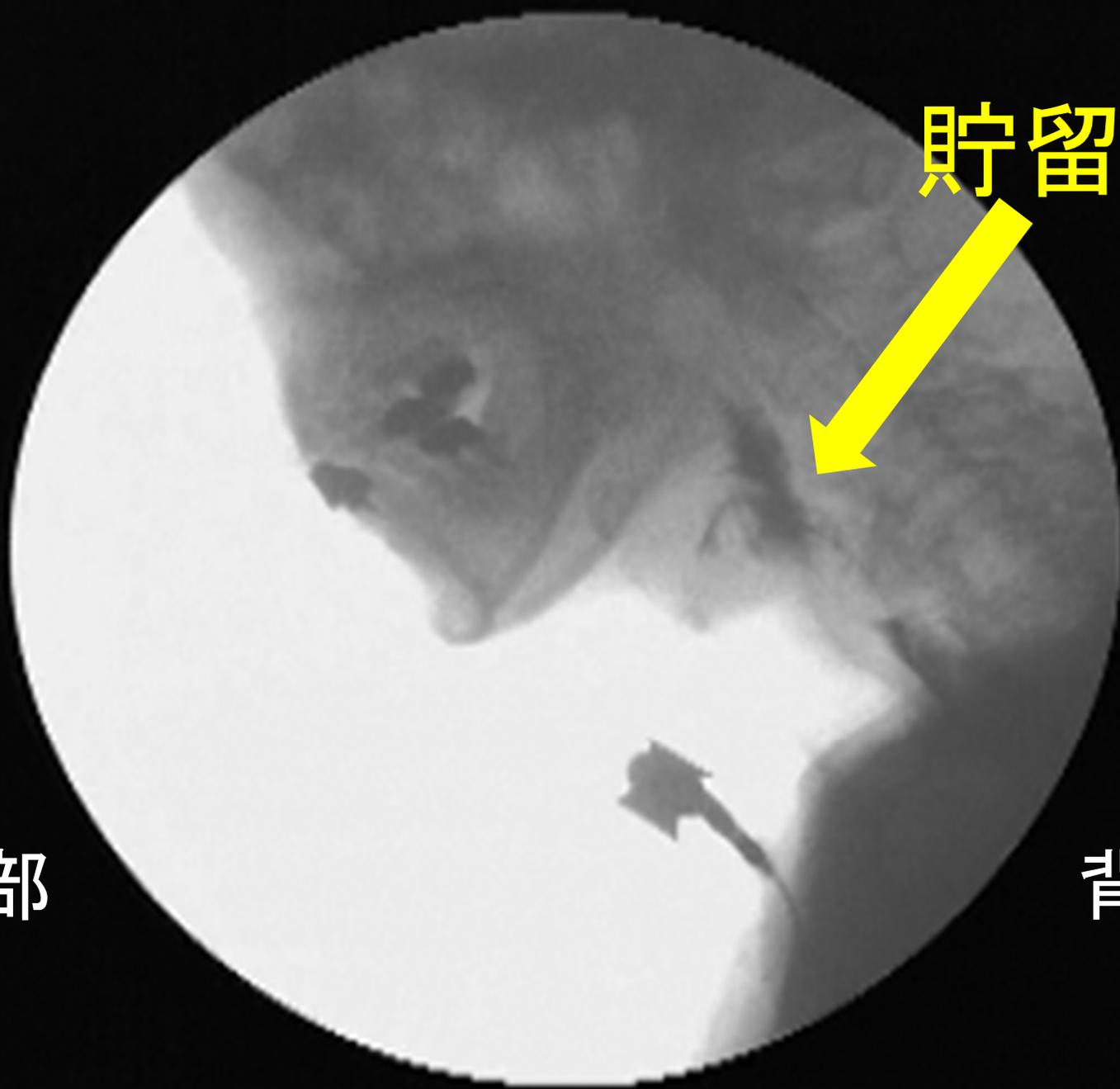
咀嚼



腹部

背部

腹部



貯留

背部

誤嚥



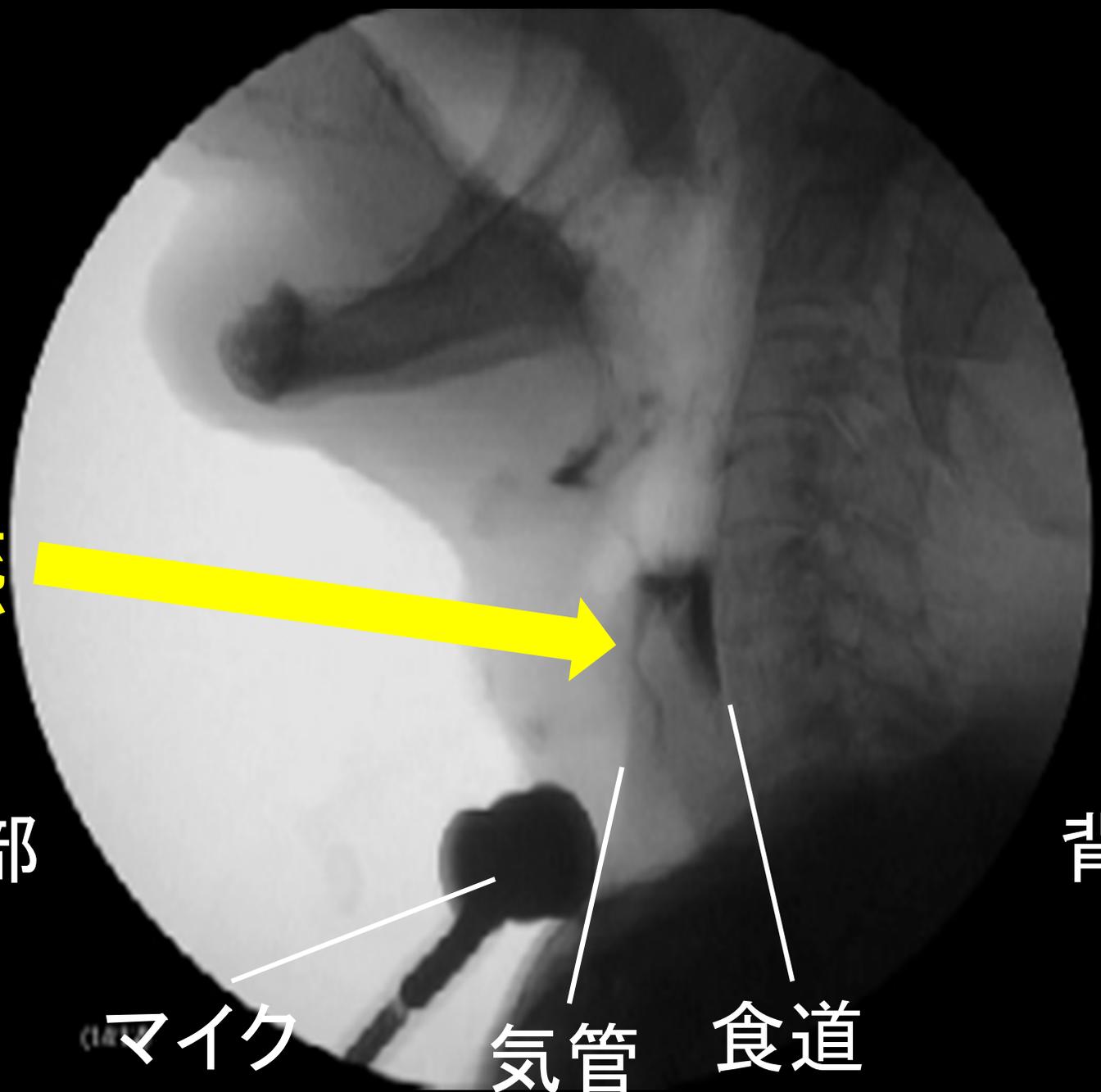
腹部

背部

マイク

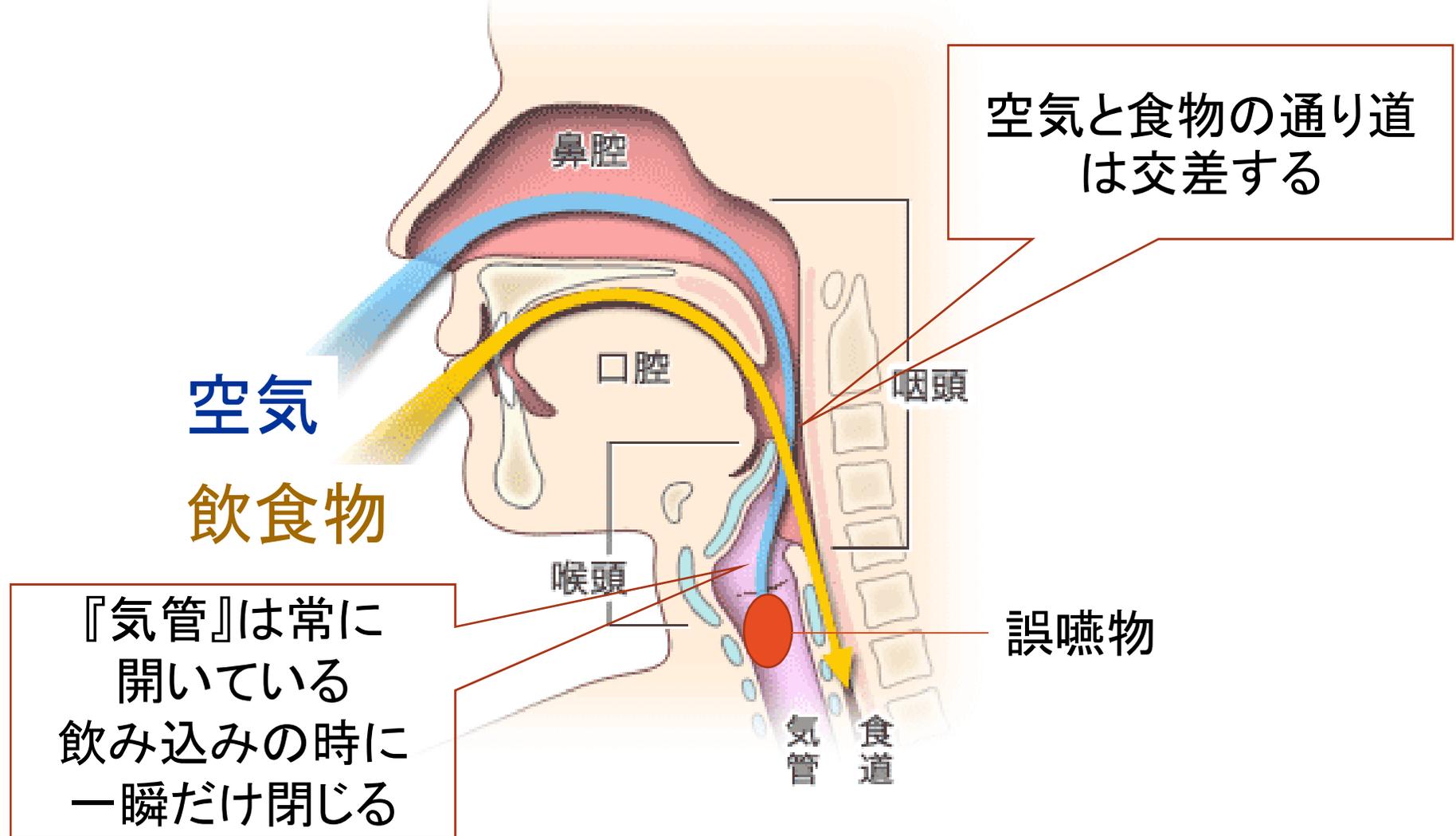
気管

食道

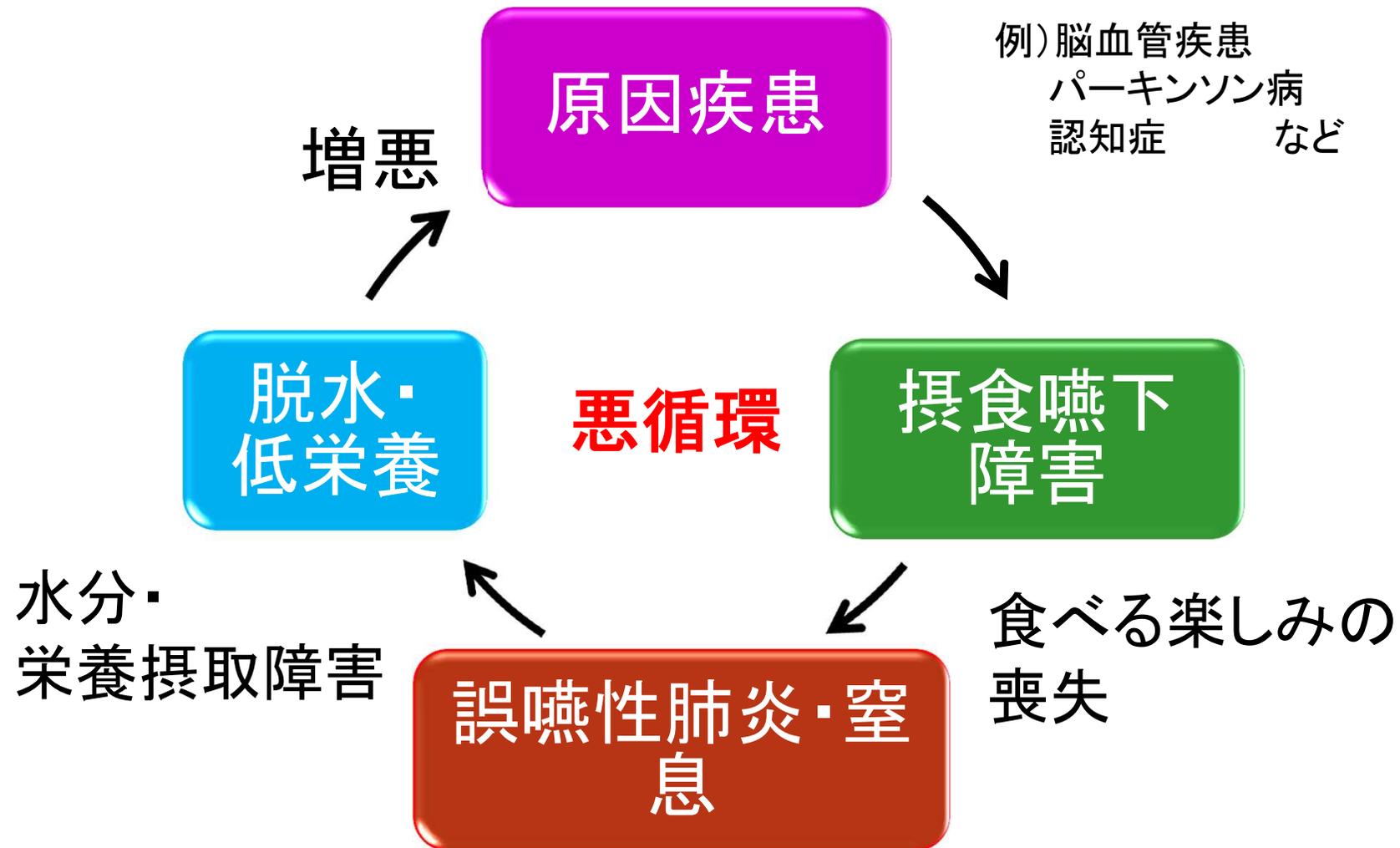


誤嚥とは？

食物や唾液などが、**気管に誤って入る**ことをいう。



摂食嚥下障害による生じる 問題の悪循環



死因順位(2014年)

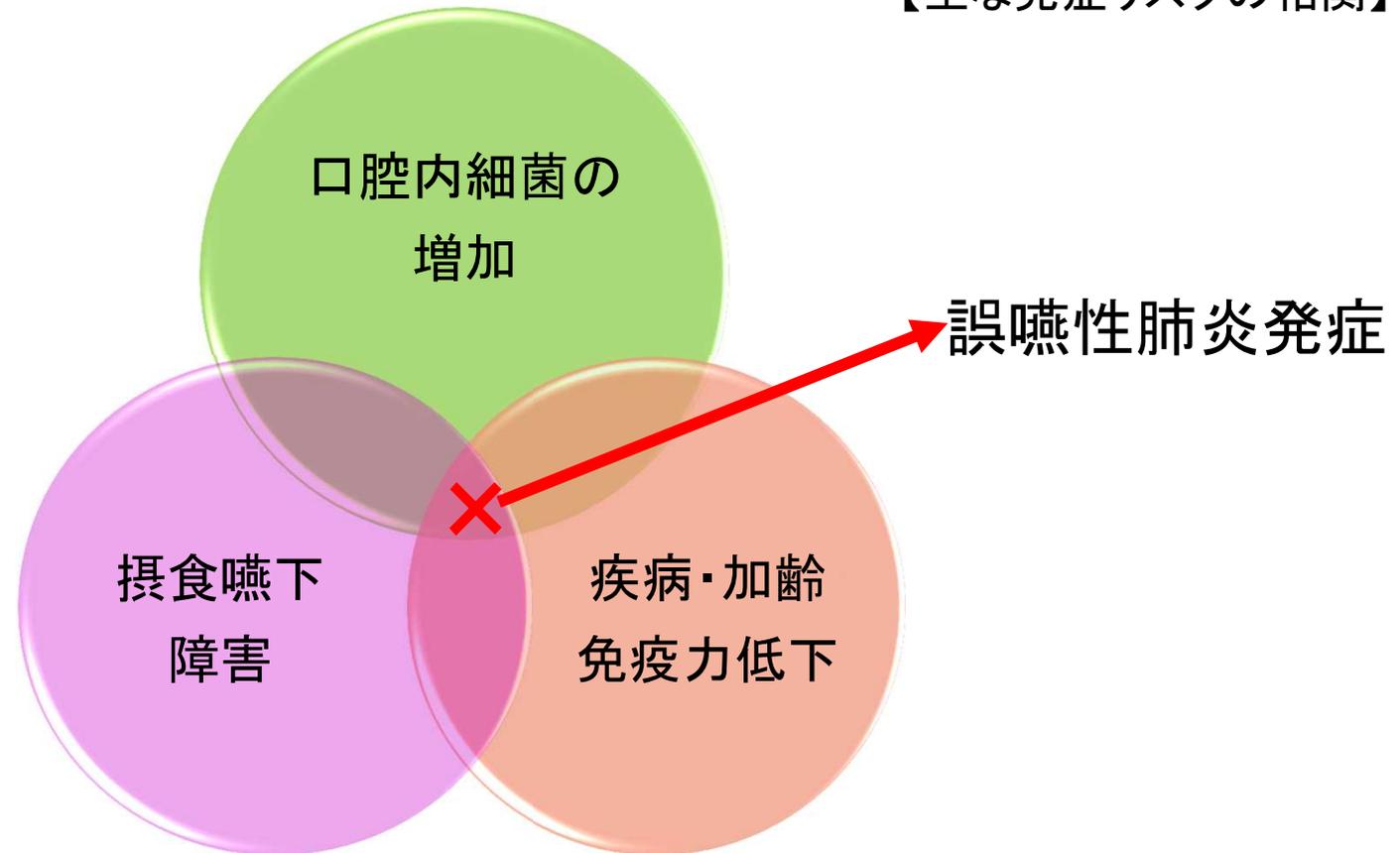
1. 悪性新生物 →がん
2. 心疾患 →心筋梗塞、狭心症
3. 肺炎 →誤嚥性肺炎など
4. 脳血管疾患 →脳梗塞・脳出血

70歳代後半から肺炎による死亡率急増し、
その多くが誤嚥性肺炎

誤嚥性肺炎

: 誤嚥を原因とする肺炎

【主な発症リスクの相関】



※夜間の唾液のむせのない誤嚥が、特に高齢者の肺炎に関与している

摂食嚥下のしくみ

もっと詳しく見てみましょう！

嚙下には2つの経路がある

随意運動

(自己の意思に基づく運動)

不随意運動

(自己の意思によらない運動)

成人嚥下のしくみ(嚥下の5期)

(Leopold 1983)

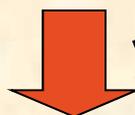
随意動作

先行期(認知期)



何をどのように食べるか判断する

準備期(咀嚼期)



食物を噛み砕いて飲み込みやすい塊をつくる

口腔期



食塊を咽頭へ送り込む

不随意動作

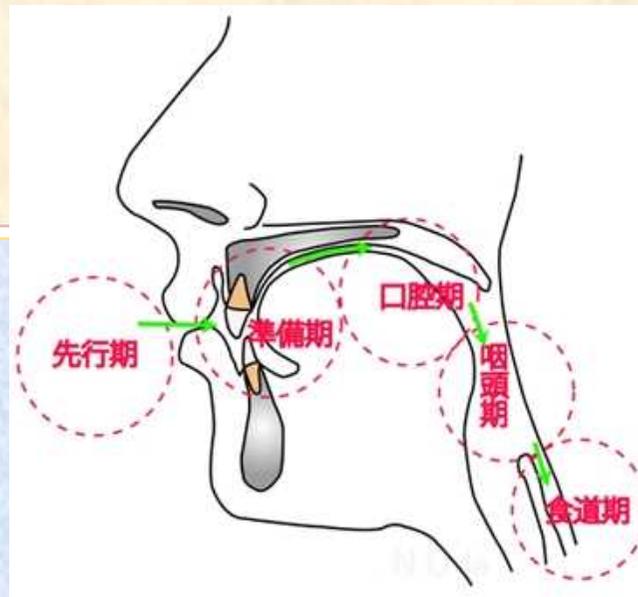
咽頭期



食塊を咽頭から食道へ送り込む

食道期

食塊を食道から胃へ送り込む



摂食嚥下障害の症状

➤各stageにみられる症状①

嚥下障害のStage	主な症状
先行期障害 (認知期障害)	食欲不振、拒食、過食
	認知・行動異常(異食、傾眠状態) 
	ペーシング障害(詰め込み)
準備期障害	開・閉口障害
	口唇閉鎖不全(流涎、食べこぼし) 
	捕食障害、取り込み不全(食べこぼし)
	口腔感覚障害(貯め込み)
	咀嚼障害、咀嚼不全(丸呑み)
口腔期障害	舌運動障害(貯め込み、口腔残留)
	ジスキネジア 

アルツハイマー型認知症の摂食嚥下障害の特徴

- ・全ての認知症のうち約50%を占める認知症で、認知機能の低下はするが身体機能はほとんど低下しない
- ・誤嚥をしないことが特徴だが、脳卒中を合併した場合や、症状が進むと誤嚥することもある
- ・食事場面が認識できず、食事を始めることができない
- ・喉へと食べ物を送り込むことがうまくできない

統合失調症の摂食嚥下障害の特徴

障害の特徴は抗精神薬による副作用が主である

副作用の例)

- ・パーキンソニズム

パーキンソン病にみられる、手足のふるえ、筋肉のこわばりなどの症状の総称

- ・アカシジア

「じっとしてられない」など訴え、時に不安焦燥感など

- ・ジストニア

斜頸、舌突出、体幹のねじれやツツパリなどの、筋緊張の異常な亢進によって引き起こされる症状

- ・ジスキネジア

顔面、口、舌、顎、四肢などに出現する不随意運動の総称で、口をもぐもぐさせる動きや舌を突出させる動きなど、口唇ジスキネジアが最も出現頻度が高い

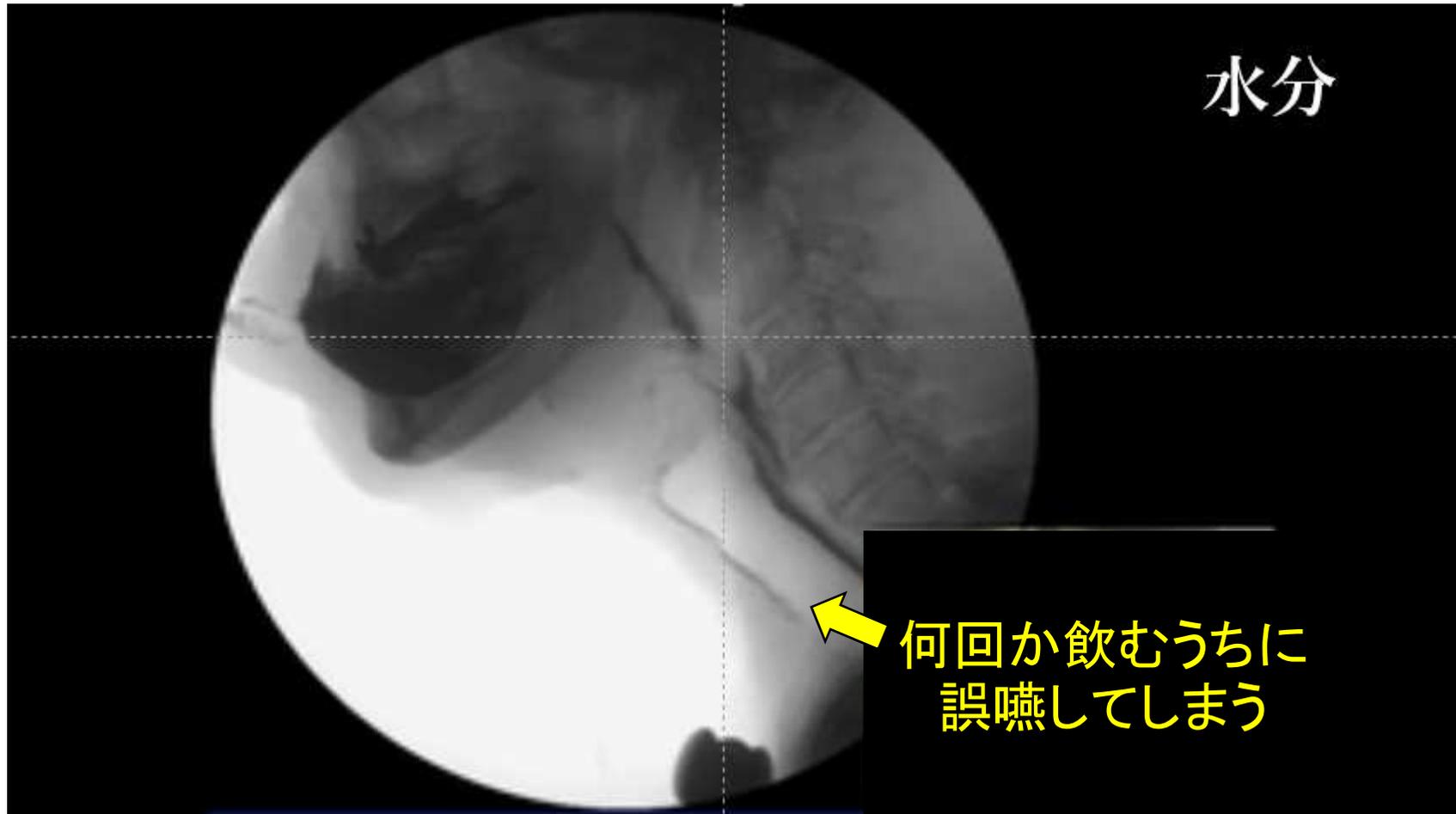
摂食嚥下障害の症状

➤ 各stageにみられる症状②

嚥下障害のStage	主な症状
咽頭期障害	嚥下反射の遅延・消失(飲み込まない)
	誤嚥(むせ、湿性嘔声、呼吸の変化) 
	喉頭挙上不全(飲み込みが弱い)
	食道通過障害(喉や胸のつかえ、咽頭残留感) 
食道期障害	胃・食道逆流(咽頭違和感、むかつき、酸性口臭) 

※ここに挙げた症状はあくまで代表的な例です。
実際の障害Stageと症状の関係は多種多様です。

廃用症候群（誤嚥）



廃用症候群の摂食嚥下の特徴

: 身体活動の低下に伴う病的状態の総称
(身体を使わないとあらゆる面で機能が衰える)

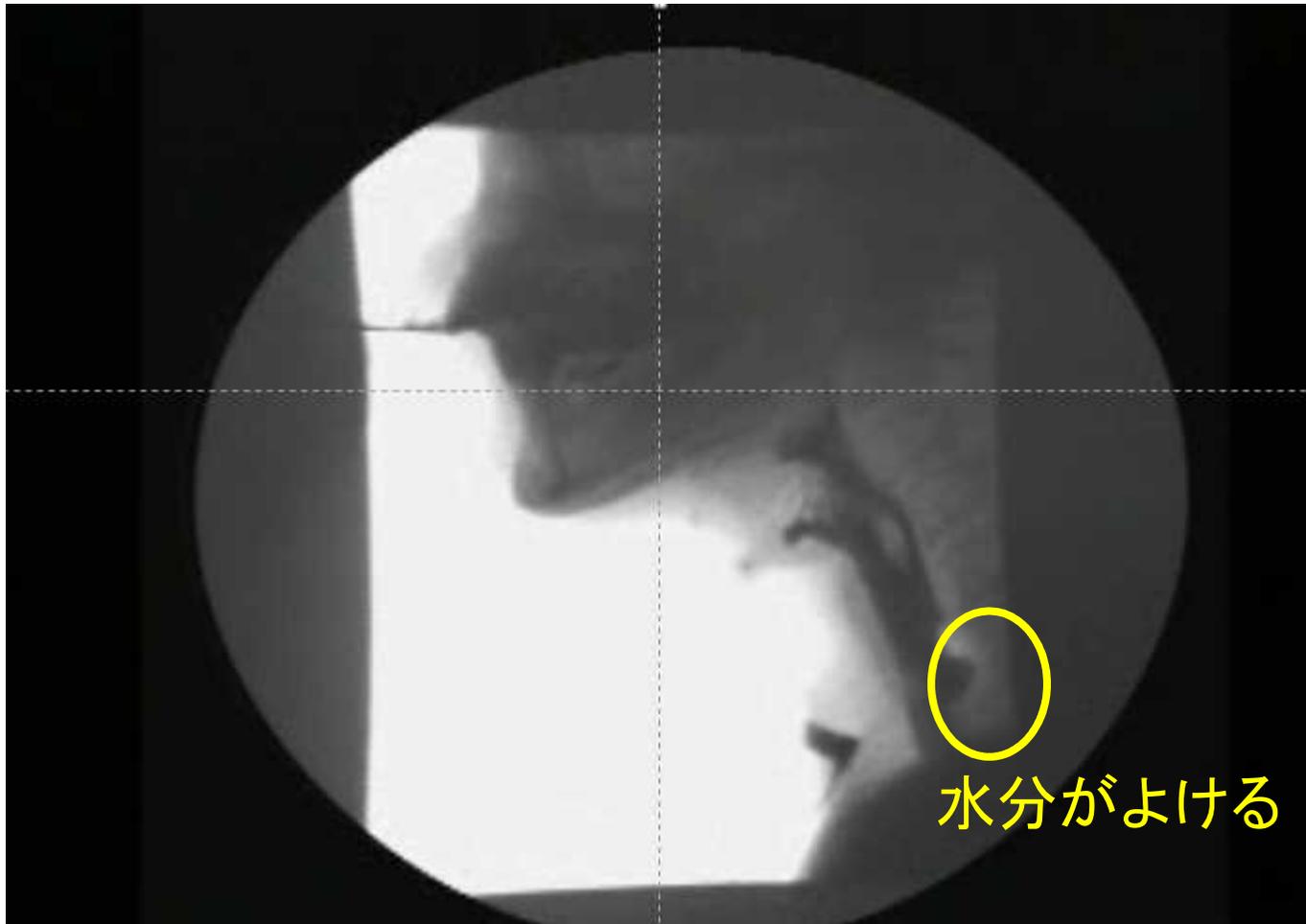


高齢者の加齢変化

身体活動の低下に伴う筋力、持久力、協調運動能、健康状態の低下

(老人: ベット上で寝たきり→骨・筋系、循環器系の機能は1日に最大2~3%低下)

食道癌(胸のつかえ)



食道がんの嚥下障害の特徴

- ・構造的な変化による障害
- ・運動神経・感覚神経の障害

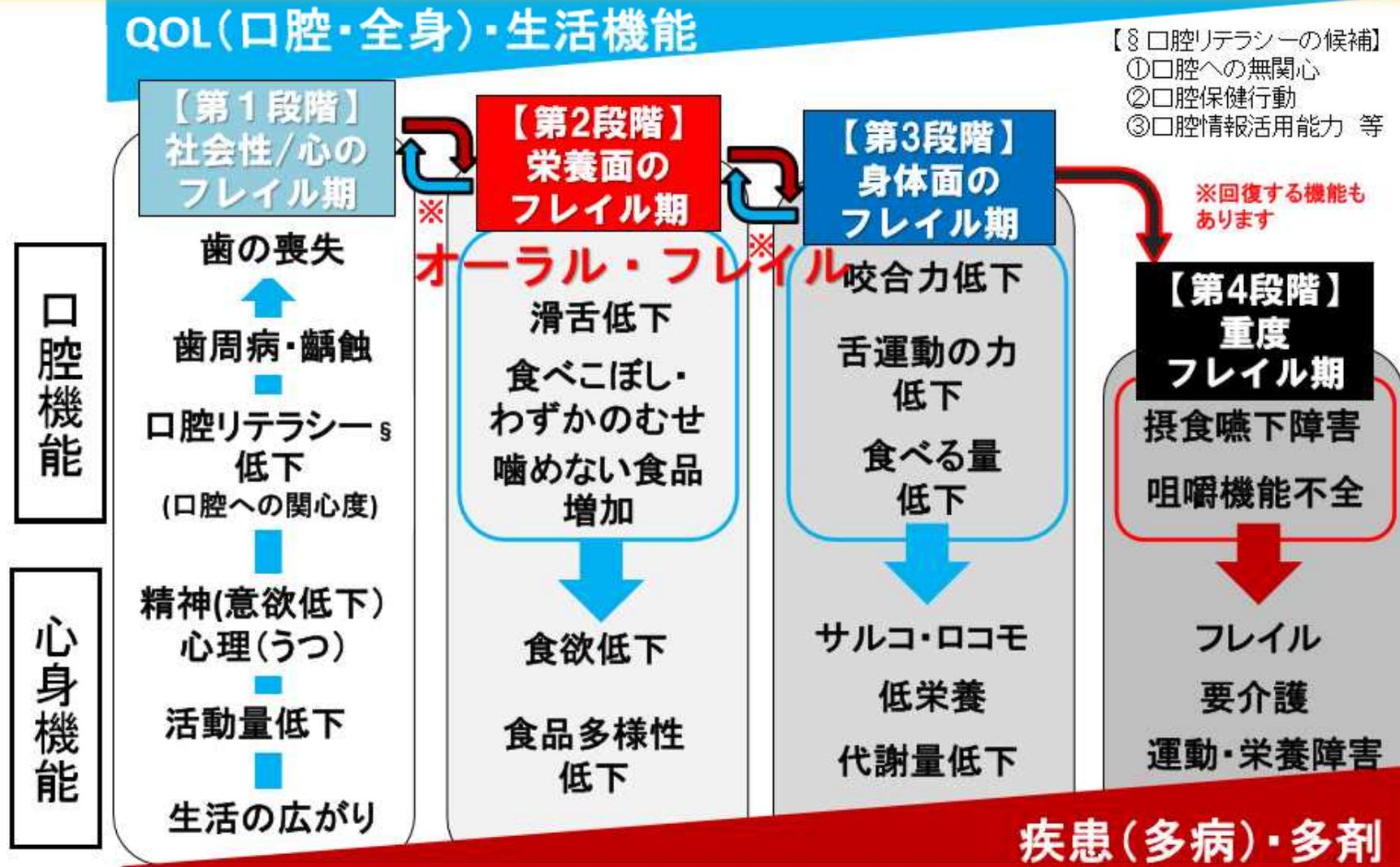
パーキンソン病の摂食嚥下障害 の特徴

- 初期には誤嚥は起こりにくい
- 症状の進行（主に**筋固縮と動作緩慢**）
により摂食嚥下障害が出現



- 症状は、舌運動障害、嚥下反射の遅延、
通過障害など

オーラルフレイルの概念図



飯島勝矢、鈴木隆雄ら. 平成25年度老人保健健康増進等事業「食(栄養)および口腔機能に着目した加齢症候群の概念の確立と介護予防(虚弱化予防)から要介護状態に至る口腔ケアの包括的対策の構築に関する研究」報告書より引用

機能低下が「顕在化する前」が大事



フレイルの予防！

